

府職労の重点要

- 災害時にも十分に対応できると職員体制を
災害時に一番必要なのは、員の力（マンパワー）です。安全・安心の確保のために、予算と職員を増やすことが必要です。また、職員が十分に力けるようマニュアルの整備、底、労働条件の整備が急務
- 災害時の労働条件の確保 非常勤職員の待遇改善
実態に合わせて、危険回避、途絶回避のための特別休暇できるようにすることや、業に迂回ルートやタクシー等、場合の費用負担等、今後生等も想定した労働条件の用です。
- また、非常勤職員も特別対象とするなど、非常勤職員善も急務です。
- 災害に弱い咲洲庁舎からこの間の災害発生時にも、舎が防災拠点とならないかかになっていきます。一刻も庁舎から撤退、大手前に集建設することを求めます。
- 全国で唯一ないボランティアの復活
災害発生時に業務に支障困で職員が居住地域等での等に従事するためにもボランティアの復活を求めます。

農家に寄り添い、農業を支える仕事

ついでこの間までだんじり祭で盛り上がりがあった岸和田駅から10分ほど歩くところ、泉州府民センターがあります。この3階にある泉州農と緑の総合事務所では65人の職員が農林業の振興、農地等の基盤整備、緑化の推進、自然環境の保全等に取り組んでいます。農の普及課の石田さんは堺地域の農家を訪問し、農家のみなさんとふれあひながら大阪の農業を発展させるた



め頑張っています。案したところ、1人の方が手を挙げて一緒に取り組んでくれました。そのイベントの成功をきっかけに、何か一つやりとげたいという実感が生まれ、自信につながり、笑顔で仕事に向き合えるようになったそうです。

コソコソ訪問するコソコソで道がひらけた

もともと植物の品種改良などに興味があり、研究職を志していた石田さんは、今から4年前に入庁し、2年間の農政室での勤務を経て、現在の事務所に配属されました。農家を訪問し、要請などに対応するのが主な仕事です。今ではすっかり明るく仕事について話す石田さんも、配属されて間もない頃は、1日の予定を自分の裁量で決めて、慣れない土地を一人で車に乗って農家へ足を運ぶことに戸惑いや不安を感じていたそうです。

コソコソ訪問するコソコソで道がひらけた

普及指導員は国家資格で、法律で各都道府県に設置が義務付けられています。石田さんは、現在の資格を取得するために日々の仕事に奮闘しつつ、試験勉強にも励んでいます。

農家と関わりたい

大阪府は都道府県の中でも普及員が少なく、堺市一帯の農家を一人で丁寧に対応できているのか不安を感じ、個々の農家に対し、どんな仕事をするかを考える時間が少ないのが悩みの種です。「職場でも『人が少なすぎてみんな余裕がないよね』と話しています。私の性格上、おかしいことばかりおかしいと言ってしまうので、気になることがあ

ば周りに相談していきなさい」と話す石田さんの言葉からも仕事に対する積極的な姿勢が伝わってきます。そんな石田さんのひそかな楽しみはラーメンを食べに行くことです。前の職場では職場の仲間と定期的にラーメンを食べに行っていたそうで、今でも行きたい店をリサーチしてかけているようです。

りかことたいちの職場訪問

こんなところにも組合員⑦

泉州農と緑の総合事務所 農の普及課 石田 真衣さん



連載

ある日、石田さんが農家の寄合で大阪府が企画するイベントを紹介し提

あつたと言います。



みなんでわいわい楽しく、女性部大会、2018 仕事・生活の時間とゆとりについて



女性部では初めのワークショップで、男性の本部役員や青年部役員もたくさん参加し、どのグループでも話がどんどん弾み、みんな笑顔で楽しく参加できるワークショップとなりました。

午後女性労働学校では、「仕事・生活の時間とゆとりについて考えよう」をテーマにワークショップを行いました。

「ゆとりを感じる・感じない」をお互いに出し合うウォーミングアップからスタートし、自分自身の24時間を可視化し、グループで共有しました。そのあとは、グループごとに「理想の24時間」を考え、理想の24時間が実現したらやってみたいこと、そのためには給料がいくら必要かなどをわいわいと楽しく話し合いました。

理想に近づけるためには労働組合の力が必要であること、③楽しくやれること、④仲間が広がる可能性があること、⑤自分をベースにみんなで出合いました。

「仕事・生活の時間とゆとり」を目指し話し合った 女性労働学校

では、8支部から日本の発言があり、職場の人員不足や休暇が取れない多忙な中でも職員はがんばっている現状についての発言が多く出されました。今回は台風21号の被害状況などの発言も目立ちました。はびきの医療センター支部からは、台風21号で多くの職員の車が被害を受けたが、安全衛生委員会が被害状況を報告し駐車場整備を求め、難色



【参加者の感想】

●忙しい毎日を通す中で、権利意識が低下しているということに「ハッ」としました。日本全体がそうなっている傾向があるので、みんなが権利意識を高めることでよりよい労働条件を獲得していく「原動力」

になるなど改めて感じました。●自分でゆとり仕事・生活の時間を考えることがなかったので、参加できてよかったです。同じグループに子育てママがたくさんいて同じ気持ちも共有でき、お互い同じところで悩んだり工夫していることがあるなど思いました。仕事の仕方、自分の時間

を確保するためにどう過ごすか少し考える時間も作ってみようかと思いました。●権利意識について学ぶことができ「目からうろこ」でした。自分の仕事量の多さを仕方ないと思っていましたが、「できないものはできない」と伝えることが大切だと他の参加者の意見をもらいました。

●理想から、身近なアを能に感じ